

社会的現実を作るメディアトーク

— ニュース報道の共鳴化 —

川上 善郎・日吉 昭彦
石山 玲子・松田 光恵
鈴木 靖子

研究の目的

新聞、ラジオ、テレビなどのマス・コミュニケーションによる情報伝達、とりわけニュース伝達の発達が生じたのは20世紀の社会を作り上げたのは周知の事実である。1990年代に入り、CATVや通信・衛星放送などの拡大・充実、またインターネットの登場と急速な普及によって、20世紀に形成されたマス・コミュニケーション環境が根底から変容しようとしている。

これらの変容は、第1に情報の流通経路の多様化と質的变化にあらわれている。従来のマスメディアに加えて、BS（放送衛星）放送、CS（通信衛星）放送、CATV、インターネットの登場は、物理的に情報流通経路を多様化させる。一例をあげれば、ニュース専門番組の登場はもちろんのこと、各種の情報専門チャンネルなども登場しつつある。第2に、従来の新聞・放送領域での情報提供の方策が大きく影響を受けつつある。例えば、インターネットを通じた新聞は、その速報性と映像性ゆえに新聞と放送との境界を曖昧化しつつあり、同時に送り手としての新聞の変質を促しつつある。また、放送の領域でも、受け手のニーズにあわせ、従来型の報道としてのニュース番組から、娯楽性を強めたワイドショー型のニュース提供など多様化が促進されている。第3に、これらニュースの送り手の側での変化と同時に、受け手の側にも変化があらわれている。上に述べた送り手側の多様化と質的な変化は、従来のような受動的な情報受容を困難にし、能動的な受け手を誕生させることになる。多チャンネル化の

情報選択行動やインターネットの情報検索行動などに象徴的にあらわれているように能動型の「受け手」が生まれつつある。第4に、コンピュータ・コミュニケーション、インターネットなどの発達は、ニュースの流通経路を根本的に変化させる可能性がある。従来ならば多数の従順な受け手としか位置づけられない人々が、マスメディアと対等な発信者たりうるという事実である。インターネット利用者が「ニュース」を送る主役になるという状況がすでに生まれている。従来はニュースの受け手としてしか位置づけられなかった「受け手」が、同時にニュースの「送り手」になりつつあるのである。このように、21世紀の情報環境は、過去の枠組みでは押さえきれないものがある。私たち自身が、ニュースの受け手であると同時に、ニュースの送り手であるという現実は、従来の「送り手」論にも、また「受け手」論にも根本的な変更を迫っているといえるだろう。

このように変容しつつある現代の情報環境の中で、特定の出来事に関するニュースが、マスメディアの送り手側とマスメディアの受け手側を含め、社会全体の中でどのように流れ、どのように消費されていくのかを実証的に明らかにすることが研究全体の目的である。しかし、本稿ではマスメディアの送り手側に焦点をあてて、特定の出来事に関するニュースが送り手の間で、どのように流れ、どのように消費されていくのかについての分析結果を報告する。

1. ニュース報道の重複と分化

新聞やニュース番組の報道内容は、多数の現象の中から「送り手」の選択によって決定される。メディアの送り手は、それぞれのメディアによって異なるのであるから、それらは独立した行動の結果ともいえるのだが、同時に相互に関連をもった行動の結果ともいえる。もっと積極的に相互に影響しあった行動の結果ともいえるのである。

W. R. Davie と J. Lee (1995) は、「特定の放送でひとつの局のローカルなあるいはネットワークのニュースストーリーとして放送され、その時間のその市場で他の局が放送していない項目」を分化、あるいはユニークなストーリーとよんでいる。また、「同じニュースバッグを共有し、ニュースイベントの議論を含み、同じ場所時間に起こるもので、特定の時間に二つ以上の局によって放送されたいかなるストーリー」を「共鳴」あるいは「重複」するストーリーと

定義している。

現象的には、異なったメディア間で同一のストーリーが流されているわけだが、同一内容のニュースが異なったメディアにおいて報道される背景として (a) ジャーナリストがニュース選択の基準として用いるニュース価値の共有、(b) ジャーナリストが彼ら自身の意見を確認する傾向、(c) 特定のニュースソースへのジャーナリストの依存、(d) 職業における人口統計上心理学的な属性によるジャーナリストの視点の一樣性が指摘されている (Davie & Lee, 1995)。これらの解釈はニュースの送り手の独立性を強調しすぎているとも考えられる。いずれにしろ、このような背景から異なったメディア間でニュースの共鳴ともいえる現象が生ずるとされる。

わが国のニュース報道における重複と分化については、萩原 (2000) の研究がある。1997年の平日5日間分のNHKおよび民放5局の夕方以降の全ニュース番組と、朝日、読売、毎日の新聞三紙を対象としている。分析は、テレビのニュース番組を軸にして行われた。テレビからニュース項目1726項目を抽出し、このうち828項目を削除し²⁾、残りの898項目について分析を行っている。これらのニュース項目のうち、一番組のみで放送された独自項目は159項目であった。二番組以上の重複がみられたのは163項目であった。すなわち重複して報道されたニュースは全体の51%であった。重複は同一局内の番組間の重複度が高く、日本テレビ57%、TBS61%、フジテレビ56%、朝日放送53%、東京テレビ52%、NHKはやや低く44-51%の間であった。また、新聞三紙については、テレビで報道したニュース項目についてのみ重複度を算出しているが81%から84%の重複を示していた。但しこれらの重複は純粋な意味での新聞間の比較ではなく、実際に新聞に掲載されている記事についての重複度はテレビ以上に低くなる³⁾。テレビと新聞の関係は、全体として民放よりはNHKとの重複度が高いこと、また夕方のニュースと新聞の重複度が高いことが報告されている。

Atwater (1986) は、アメリカのローカルテレビニュース番組45番組から、527ニュース項目を抽出し、それらの重複度を求めたところ45%-54%の間であり、放送時間の重複は50-56%であったと報告している。また、W. R. DavieとJ. Lee (1995) は、30分のニュース番組90番組から1335ニュース項目を抽出し重複度を求めたところ56%と報告している。テレビのニュース番

組については、送りだされるニュース項目のほぼ50%程度は重複した内容であることが示されている。

ニュースの送り手の選択の結果としてニュースの重複がおこるという考え方からは、送り手のニュース選択のバイアスがニュース領域によって異なることが予想できる。ニュース内容と重複の関係について、W. R. DavieとJ. Lee (1995)は、ニュース項目をトピックごとに分類し、それらの中での重複度を求めている。それによると、Fire Accidents/Disasters (72%)、Education (69%)、Politics/Government (62%)、Crimes/Court (62%)などが高く、逆に起こりにくいトピックは、Sports (30%)、Economy Business (39%)、Weather (42%)、Human Interest (42%)であると報告している。また、Atwater (1986)も同様に、Crime/Courts、Government/Politics、およびAccident/Disasterの各カテゴリが最も頻繁に重複することを示している。このように、重複が起こりやすいニュース・トピックとそうでないものがあることが示されている。一般にソフトニュースにおいては重複が起こりにくい。

これらの研究は、ニュース項目のマクロな重複度を実証的に示したものである。現象的にニュースの重複が、どの程度、どのようなニュース内容で生起しているのかを分析したものである。本稿では、全体としての重複については先行研究にゆずり、個々のニュース項目に焦点をあて、どのような時間的な推移で、どのようなメディアを通して報道されていったのか分析しようとするものである。そのことを通して、単に現象的に重複して報道することになったのか、あるいは送り手間で相互作用(共鳴)しているのかについても分析しようとするものである。

2. ニュース報道の娯楽化・エンターテインメント化

ニュース報道についての主要な議論のひとつにニュースの娯楽化がある(藤竹, 1996、萩原・斉藤・川端・横山・李・福田, 1999)。ニュース報道の娯楽化の議論は、ひとつは内容面での娯楽化という視点がある。伝統的なニュース報道は、政治・経済の出来事と社会的な事件を中心に構成され、全体の息抜き程度にソフトニュースを配するといった構成が一般的であった。しかしニュース報道の娯楽化は、スポーツ報道、芸能ニュース、さらにはグルメ情報など幅広い生活情報に関するニュースをも含むようになったという議論である。実際、

川上・川浦・古川・片山・鈴木（2002）の報告によると、午後5時台から6時台のニュース番組では、従来型のニュース項目は極端に少なくなっていると報告している。

このような内容面からの議論とは別に、ニュースの伝達手法における娯楽化という視点がある。アナウンサーがニュースを読み上げるという形式から、ビデオ映像を中心とした形式、アナウンサーからニュースキャスターへの変化、さらにスタジオトークともいえるキャスター、レポーター、コメンテーターなどのやりとりを通したニュースの伝達形式へと大きく変化している。さらに、ビデオ映像の使用ばかりでなく、コンピュータグラフィックスやアニメーションを用いた表現、スタジオ内のセットなど表現形式における娯楽化という変化も指摘できる。このような視覚的なものとは別に、多様な背景音楽の利用といった聴覚的な表現の変化も指摘できる。このように内容とは別に表現形式からの娯楽化も指摘されている（萩原ら，1999）。

ニュース報道が新聞からテレビへと大きくシフトする中で、テレビ番組のひとつとしてのニュース番組も視聴率獲得の手段のひとつと位置づけられている。実際にニュース番組は一定した視聴率を獲得しており他局との視聴率争いは激化している。そのため、視聴者がニュース番組にチャンネルを合わせるようにするには、ニュース報道の娯楽化・エンターテインメント化は必然的に進行せざるをえないのだろう。このことが、上に述べたニュースの重複と分化にどのような影響を与えるのかを明らかにするのも本研究のひとつの目的である。

3. ニュース伝達媒体の多様化

さらに娯楽化とも関連するが、ニュース伝達媒体の多様化も指摘できる。ニュースを報道する媒体が新聞でいえば一般紙とか、テレビでは定時のニュース番組に限定されなくなったことである。従来ならば「スポーツ新聞」はスポーツ、芸能、レジャー情報を中心に構成されるのが常識であったが、現在では一面トップで「えひめ丸、艦長謝罪」を報道しても不思議ではない。また速報性についても、必ずしもテレビのニュース番組とか一般紙の方が早いともいえない現象がおきている。最近では取材体制の弱いスポーツ新聞がもっとも事件を早く伝えるとか、ワイドショーがもっとも早く事件を伝えるという事態も

起こっている。また夕刊紙については、政治・経済に関するニュース報道に積極的に関わっている。このようにニュース伝達に深く関わる報道媒体はここ十数年の間に大きく変容していることが指摘できるが、夕刊紙、スポーツ紙などのニュース報道についての研究は皆無の状態である。さらにテレビについては、ニュース番組とは別に「ワイドショー」の存在を無視することはできない。1964年の木島則夫ショーのスタートから、紆余曲折はあるものの現在では、平日に民放各局とも午前2時間、午後2時間の一日4時間程度を使っている。ニュース番組以上の時間をワイドショーは消費している。

川上ら（2002）は、団地の主婦らを対象にして「ワイドショーかニュース番組のいずれかのチャンネルしか見られないとしたらあなたはどちらをみるか」という質問した。「今の社会で何が重要かを知りたい」とか「事件などに関する正確な情報を得たい」場合には男女とも「ニュース番組」が選択されたが、「事件などの詳しい背景を知りたいとき」（女性53%、男性23%）「周囲の人との話題を得たいとき」（女性85%、男性42%）「キャスターや出演者の意見をを知りたいとき」（女性65%、男性38%）にはワイドショーを選択するまでになっている。このようにニュース伝達において、ワイドショーは、重要かどうか、正確な情報ということではなく、どうしてその事件が起こったのか、どのように犯罪が行われたのかなど、事件の背景を詳しく知りたい場合に有効であると考えられているのである。また、ワイドショーに登場するコメンテーターなどがその事件についてどのような意見をもっているのかを知るために、同時に自分が人々と話をする際の話題を仕入れるためにワイドショーは見られている。このように私たちの社会的認知を形成する上で従来型のニュース報道以外に、ワイドショーによるニュース伝達について調査対象にいれる必要性があるといえるのである。スポーツ新聞、夕刊紙、ワイドショーは、伝統的なニュース研究にとっては対象とさえされてこなかったのが現状である。

このようなニュースを伝達する媒体の多様化のもたらすものは、単に伝達媒体そのものが増えたということにだけ意味があるわけではない。もっとも重要な意味は、これらメディア媒体間のニュース項目の重複ということである。すでに紹介した重複研究は、テレビ番組間のニュースの重複であり、せいぜい範囲を広げたとしてもテレビ番組と新聞報道の間の重複に拡張したものにすぎない。しかし、現在のニュース報道の現実、従来型のテレビニュース番組と新

聞が作り上げているのではない。上に述べた伝達媒体の多様化が実際にもたらしているのは、ニュースの送り手間の共鳴作用であり、その結果としてのニュース報道の重複という現象なのである。これまで議論されたニュース報道における重複と異なるのは、同一の情報源からの選択の結果としての重複ということではなく、他のニュース報道が次のニュース報道の情報源となっていることである。あるいはまた他の番組の報道結果をみて、次のニュース報道が組み立てられていくという現象が頻繁に起こっていることである。実際ワイドショーなどでとられている手法は、前日のニュース報道をもとに番組が作られていること、あるいはまた「今日の夕刊」などの手法で、他の媒体の報道をさらに一定の視点でセレクトして報道するといったことが日常的に行われているのである。本研究ではこれらのプロセスをメディア・トーク（日吉・川上・石山・松田・鈴木、2002）と名づける。スポーツ新聞に記事が掲載され、それをワイドショーがとりあげ、その後に新聞やテレビのニュース番組にとりあげられるということは、現在では少しもめずらしくない。しかもこれらのプロセスが直線的な関係ではなく、時間的な経過の中で、相互作用して報道されることさえ、大きな事件においては頻繁に繰り返されている。本研究の目的のひとつは、このような伝達媒体間でのやり取りのプロセスを実証的に分析することである。

4. 新しいニュース媒体の登場

最後にとりあげておかねばならないのは、インターネットを利用したニュース報道である。インターネット上でのニュース提供は、日経、朝日、読売、毎日、産経などの新聞社の行っているニュースサイトや共同通信社などの通信社の運営するニュースサイト、この他に地方の新聞社やその他の通信社のものも多数存在する。また、ウェブサイトを用いずに、メーリングリストを用いたニュース配信も多数存在する。新聞社のニュースサイト以外にも利用者が多いものとしてヤフーなどのポータルサイト上のニュースがあり、これらも重要である。これらは系列化が進められており、特定の新聞社・通信社のニュースが流されている。また、テレビ局のサイトにおいてもニュースが流されているし、スポーツ新聞、夕刊紙、さらには各種の週刊誌などもニュース報道に参入している。既存のマスメディア媒体によるニュースサイト以外にも、異業種によるニュース配信の参入も目立つ。コンピュータ関連の情報誌などが、ウェブおよ

びメーリングリストを用いてインターネットやコンピュータに特化したニュースを配信し、部数を伸ばしている。インターネットの特質が、既存のニュースメディア以外の参入を許しているのであり、その中でどのような媒体が勢力を伸ばすのかは予測が不可能である。インターネットにおけるニュースサイトの利用と効果については齊藤・萩原・川端・福田・李・御堂岡・横山（2000）があるが、インターネットの状況は流動的であり決定的な研究は少ない。

インターネット上のニュース報道を考える上での必須の議論は、巨大掲示板などにおける「ニュース報道」である。新聞社などで報道されたニュースが掲示板に転載され、コメントがつけられ、さらに他の掲示板に転載されてニュースが広がるという形式が生まれている。最初に述べたニュースの「受け手」が、同時にニュースの「送り手」になりつつあるという現象こそ、現代におけるニュース伝達を考える上でのポイントである。しかし、本研究では、新聞社のニュースサイトのニュース報道についてだけ分析を行った。限定的ではあるが、インターネットにおけるニュース報道は、速報性、詳報性、記録性などこれまでにない特性をもっている（齊藤ら、2000）といえる。これらの新しいニュース媒体がニュースの流れの中で、どのような役割を果たすのかを分析するのも本研究のひとつの目的である。

注

- 1) 本研究は、「社会的現実形成にかかわるニュースメディアの可能性と限界」（研究課題番号 12410040）平成 12-13 年度科学研究費補助金基盤研究（B-2）代表者川上善郎として行われたものである。
- 2) 全ニュース項目から、企画・特集、スポーツ、気象情報、株式市況を削除している。
- 3) この場合の重複率の計算は、テレビで報道されたものについての重複である。萩原（2000）も指摘するように、新聞に関してテレビと同様の重複率を求めると、テレビの場合よりもずっと低い重複率になる。新聞では、ニュース項目は極めて多く、新聞間の分化はずっと進んでいる。ただしテレビが報道するような「大きな」ニュースに限定すると新聞はテレビ以上に重複度が高くなることを示している。
- 4) テレビ番組（ニュース番組、ワイドショー）、新聞（一般紙、スポーツ新聞）について内容的な重複については、川上ら（2002）が報告している。

研究方法

データの収集

1. データの収集方法

(1) データ収集期間

2001年3月9日金曜日から2001年3月16日金曜日までの8日間をデータ収集期間とし、この間に放映・発行されたメディア（テレビ、新聞、インターネット、週刊誌など）を対象にデータ収集を行った。

(2) 対象としたメディア

1) テレビ：テレビニュースとワイドショー

対象としたテレビ局は、テレビ朝日（朝日新聞系列）と日本テレビ（読売新聞系列）の民放2局、それに比較のためのNHKを加えた計3局である。この中から、期間中10分以上放映された全ニュース番組とワイドショーをビデオ録画した¹⁾。

2) 新聞：一般紙とスポーツ紙他

一般紙は、朝日新聞、読売新聞の主要2紙の朝・夕刊を対象とした。この2紙は、いずれも主要全国紙で発行部数が多い（読売約1000万部、朝日約850万部）。

尚、スポーツ紙の日刊スポーツ（朝日新聞系列）とスポーツ報知（読売新聞系列）をはじめとして、その他、テレビのワイドショーなどで取り上げられる割合の高い東京スポーツや、サラリーマンの読者が多いといわれる日刊ゲンダイの計4紙を収集した。

3) インターネット：asahi.com、yomiuri On Line

インターネットニュースであるasahi.com（朝日新聞系列）とyomiuri On Line（読売新聞系列）のトップページと2層目を、当該日の午前24時に採集した。

4) 週刊誌

週刊朝日（朝日新聞系列）、Yomiuri Weekly（読売新聞系列）のほかに、比較のために、女性誌3誌、写真週刊誌3誌、出版社系週刊誌4誌、新聞社系2誌の計14誌²⁾を収集した。

(3) データ収集³⁾

次に、対象としたメディア別に、テレビでは1ニュース項目を1単位とし、ラインナップ順に番組構成表を作成しデータ化した。同様に、新聞、インターネット、週刊誌では、1記事を1単位とし、掲載面別に記事構成表を作成しデータ化した。尚、新聞の記事タイトルのデータ化には、ニフティサーブの「新聞記事検索」⁴⁾を用いた。また、週刊誌の記事タイトルのデータ化のために、インターネット上の「週刊誌見出しチェック」⁵⁾を用い、目次を収録した。

2. 分析に用いたデータの作成方法

次に、2001年度の報告書(川上他, 2002)において取り上げた15のニュース報道について、認知率⁶⁾(表2参照)との関連を探るために、これらの報道に関するニュース項目をすべて拾い出した。

この15のニュース報道⁷⁾とは、2001年3月9日から3月15日に発生したニュースの中から、「国際」「政治・経済」「事件・事故」「スポーツ」それに「芸能関係」の5つの領域別に抽出したそれぞれ3つのニュースのことで、計15のニュース・トピックである。

ニュース項目の分析に際しては、先に作成しデータ化した番組構成表と記事構成表を基にし、期間中に対象とした全メディアから、ニュース項目のタイトルを中心に分析データを作成した。

例えば、「国際」報道であるえひめ丸関連のニュースについていえば、「実習船『えひめ丸』の家族に前艦長が謝罪」というニュース項目を分析したのだが、この場合は、まず、タイトルに「実習船、えひめ丸、前艦長、謝罪」というキーワードが一つでも含まれているニュース項目をすべて拾い出した。その後、抽出したニュース項目に関してニュースの概要をチェックし、当該ニュース報道であることを確認した上で最終的に分析データを作成した。

また、他の「国際」報道についても同様に、「コロンビアで邦人社長誘拐される」というニュースでは、「コロンビア、邦人社長、誘拐」をキーワードとして、タイトルから関連ニュースを全て抽出し、その後、概要チェックを行った。

同じく「国際」報道である外務省機密費流用事件についていえば、「機密費流用の外務省松尾元室長逮捕」というニュース項目を分析したのだが、「機密

費、外務省、松尾、元室長、逮捕」をキーワードとして、タイトルから関連ニュースをすべて拾い出した。その後の概要チェックも同様である。

次に、「政経」領域における3報道をみてみよう。まず、「森首相、事実上の辞意を表明。自民五役と会談」のニュースでは「森首相、辞意」をキーワードに、さらに、「森首相が『拾われた赤ん坊じゃない』と発言」では「森首相、赤ん坊」をキーワードに、そして、「三菱自動車クレーム隠しで株主代表訴訟」というニュースでは「三菱自動車、クレーム隠し、株主代表、訴訟」をキーワードにし、タイトルにこれらが一つでも含まれるニュース項目を全て抽出した。その後、抽出したニュース項目に関してニュースの概要をチェックし、当該ニュース報道であることを確認し、分析データを作成した。

また、「事件」領域の3報道に関していえば、まず、「タバコ、酒の自動販売機禁止。深浦町条例可決」のニュースでは「自動販売機、深浦町、条例可決」をキーワードに、さらに、「新幹線無人で走行。制帽取りに運転室離れる」のニュースでは「新幹線、無人走行、制帽」をキーワードに、そして、「マイライン初集計、NTTがひとり勝ち」のニュースでは「マイライン、NTT」をキーワードにして、タイトルからニュース項目を抽出し、ニュース概要チェックを行い、分析データを作成した。

同様に、「スポーツ」領域の3報道では、まず、「スピードスケート世界選手権で清水宏保世界新」のニュースにおいて「スピードスケート、世界選手権、清水宏保、世界新」をキーワードに、さらに、「サッカーくじ、totoでいきなり1億円2本」のニュースでは「サッカーくじ、toto、1億円」をキーワードに、そして、「シアトルマリナーズのイチロー初死球」のニュースでは「シアトルマリナーズ、イチロー、初死球」をキーワードにし、タイトルからニュース項目を拾い出した。その後の概要チェックも同様である。

さらに、「芸能」領域の3報道において、まず、「篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される」というニュースでは「篠原ともえ、台湾」をキーワードに、そして、「玉三郎21世紀座芸術監督辞任で提訴へ」というニュースでは「玉三郎、21世紀座、芸術監督、提訴」をキーワードに、さらに、「久米宏母痴呆、妻更年期障害の日々を告白」というニュースでは「久米宏、母痴呆、妻更年期障害、告白」をキーワードにし、タイトルからニュース項目を抽出した。その後、概要チェックを行った。

このように、それぞれのニュースごとに、タイトルにあるものに限定したキーワードを使用して絞り込み検索し、その後、抽出したニュース項目に関してニュースの概要をチェックし、当該ニュース報道であることを確認し分析データを作成した。

分析方法

上記15のニュース報道に関し抽出したニュース項目について、先に作成しデータ化した番組構成表と記事構成表を基にして、以下の方法にて内容分析を行った。

1. 内容分析

- (1) まず、メディア別⁹⁾に15のニュース報道に関する基本データを抽出した。データの単位は、1ニュース項目（もしくは1記事）とし、報道日ごとに、テレビでは番組のラインナップ順に、新聞では掲載面別に分析した。
- (2) 次に、メディア別に、報道回数や報道量（テレビ番組は放映時間、その他のメディアは報道文字数）を分析した。合わせて、系列別⁹⁾に同様の分析を行った。さらに、番組や紙面における重要度を測るために、テレビ番組では高ラインナップ順位の比率を、新聞においては1面掲載の件数などを集計した。
- (3) また、ニュースの時系列におけるメディアの変動をみるために、ニュース項目ごとに、時間経過に従い報道したメディア¹⁰⁾を順に取り上げ一覧表にした。これにより、いつ、どのメディアが、どういう順番でニュースを取り上げていたのかが明らかになった。

2. コーディング

全メディアに共通したコーディング項目は、①報道の日付、②曜日、③タイトル、④系列（朝日系、読売系、NHKもしくはその他）の4項目とした。それに加えて、テレビニュースとワイドショーというテレビ番組においては、①番組開始時刻、②項目開始時刻、③報道時間、④ラインナップ順位、⑤映像、⑥音声、⑦概要の7項目を分析した。また、新聞（一般紙とスポーツ紙他）においては、共通コーディング項目のほかに、①朝刊/夕刊、②報道文字数、③

掲載面、④写真の有無という4項目をコーディング項目として加えた。さらに、インターネットニュースでは、①項目掲載時刻、②報道文字数、③掲載面、④写真の有無という4項目をコーディング項目として加えて分析した。尚、週刊誌に関しては、共通コーディング項目のみとし、データの作成はしたもの、基本的な分析からは除外¹¹⁾した。

3. 分析基準

(1) ニュース項目の概要

まず、朝日新聞のデータベースを利用して検索した新聞記事を中心に、ニュース項目の概要を記述した。必要に応じて、実際のテレビニュース（ビデオ録画）を見たり、また、週刊誌の記事を参考にした。さらに、背景情報が必要な場合や、その後の展開のあるニュースに関しては、詳細を記述した。とくに、「実習船『えひめ丸』の家族に前艦長が謝罪」というニュースや「機密費流用の外務省松尾元室長逮捕」のニュースに関しては、当該ニュース項目だけでなく、全体像を知るために、「えひめ丸」の沈没事故や、「松尾室長」にまつわる外務省の汚職事件全体を概観した。

さらに、事件や事故そのものの正確な発生時間を調べ、実際の報道とは異なった時間に事件や事故が発生している場合、どういう経緯で報道されるにいたったかについて考察した。

(2) 最速報メディア

事件や事故をニュースとして最初に報道したのは、どのメディアのどの媒体であったのかを分析した。さらに、どうしてそのメディアが最初に報道することになったのか、それは、メディアの特性なのか、それとも、たまたま時間的な問題であったのか、または、メディア系列が関係するのかなどについて考察した。

(3) メディア別／系列別ニュース報道量

次に、報道量の比較のために、それぞれのニュース項目ごとに、メディア別の全体報道量と、さらに、系列別報道量という視点をを用いて、報道回数や報道時間もしくは報道文字数というコーディングの分析結果をまとめた。これらの集計した結果を基に、なぜこのメディアでこれだけ報道されたのかという点を探った。

(4) メディア別／系列別にみたメディア推移

先に作成したニュース項目ごとの時間経過一覧表により、ニュースの系列におけるメディア推移をみた。

尚、ここでは、系列別という視点も取り入れると共に、重複の程度、共鳴の程度に着目し、メディア間での共鳴や相互引用などについても言及した。

(5) メディア別に見たニュースの位置づけ

次に、各メディア内でのニュースの位置づけをみるために、各メディア内で、そのニュースがどの程度の大きさで取り上げられていたのかに焦点を当てた。ここでは、先のメディア別の全体報道量に加えて、テレビニュース及びワイドショーにおいてはラインナップ順位を、一般紙、スポーツ紙(他)、及び、インターネットニュースの場合には、1面での扱いかどうかを中心に判定した。さらに、分析単位となったニュース項目の報道時間(新聞の場合は報道文字数)も合わせて考察した。

表-1 対象とした番組名

番組名	放送局	放映日	開始時間	放映時間	
ニュースプラス1	N T V	3/9,12,13,14,15,16	17 : 00	2 : 00	
出来事*	N T V	3/9,10,11,12,13,14,15,16	22 : 54	0 : 31	
ルック	N T V	3/9,12,13,14,15,16	8 : 30	1 : 55	#
おもいっきりテレビ	N T V	3/9,12,13,14,15,16	12 : 00	1 : 55	#
ザ・ワイド	N T V	3/9,12,13,14,15,16	13 : 55	1 : 55	#
ウェークアップ!	N T V	3/10	8 : 00	1 : 30	
ニュースプラス1サタデー	N T V	3/10	18 : 00	0 : 30	
THE・サンデー	N T V	3/11	8 : 00	1 : 55	
The独占サンデー	N T V	3/11	18 : 00	1 : 00	
スーパーJチャン	テレ朝	3/9,12,13,14,15,16	16 : 55	2 : 05	
ニュースステーション	テレ朝	3/9,12,13,14,15,16	21 : 54	1 : 15	
スーパーモーニング	テレ朝	3/9,12,13,14,15,16	8 : 00	1 : 55	#
ワイド!スクランブル	テレ朝	3/9,12,13,14,15,16	11 : 30	1 : 35	#
ANNニュース	テレ朝	3/10	11 : 45	0 : 15	
Jチャン**	テレ朝	3/10,11	17 : 30	0 : 25	
サンデープロジェクト	テレ朝	3/11	10 : 00	1 : 45	
スクープ21	テレ朝	3/11	18 : 56	1 : 00	
サンデージャングル	テレ朝	3/11	23 : 30	0 : 55	
おはよう日本***	N H K	3/9,10,11,12,13,14,15,16	7 : 00	1 : 15	

お昼のニュース*****	NHK	3/9,10,11,12,13,14,15,16	12:00	0:20	
首都圏ネットワーク	NHK	3/9,12,13,14,15,16	18:00	0:53	
NHKニュース7*****	NHK	3/9,10,11,12,13,14,15,16	19:00	0:30	
ニュース9	NHK	3/9,12,13,14,15,16	21:00	0:15	
NHKニュース10	NHK	3/9,12,13,14,15,16	22:00	0:55	
NHK週間ニュース	NHK	3/10	8:30	0:45	
週間こどもニュース	NHK	3/10	18:00	1:00	
首都圏ニュース	NHK	3/10	20:45	0:15	
サタデー	NHK	3/10	21:50	0:30	
ニュース	NHK	3/11	18:45	0:15	
サンデースポーツ	NHK	3/11	21:50	1:00	

* 3/10 (土) は 23:55 より、3/11 (日) は 23:30 より開始。放映時間は両日も 15 分間。

** 3/11 (日) の放映時間は 30 分間。

*** 3/11 (日) の放映時間は 45 分間。

**** 3/10 (土)、11 (日) の放映時間は 15 分間。

***** 3/11 (日) の放映時間は 20 分間。

印は、ワイドショー。

表-2 ニュース・トピックと認知率

領域	NO	ニュース・トピック	認知率%	話題率%
1. 国際	1-1	実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪	99.0	47.5
	1-2	コロンビアで邦人社長誘拐される	77.5	10.5
	1-3	機密費流用の外務省松尾元室長逮捕	92.5	37.0
2. 政経	2-1	森首相、事実上の辞意を表明。自民五役と会談	98.0	43.0
	2-2	森首相が「拾われた赤ん坊じゃない」と発言	60.5	15.5
	2-3	三菱自動車クレーム隠して株主代表訴訟	65.0	13.0
3. 事件	3-1	タバコ、酒の自動販売機禁止。深浦町条例可決	70.0	19.5
	3-2	新幹線無人で走行。制帽取りに運転室離れる	69.0	20.5
	3-3	マイライン初集計、NTT がひとり勝ち	43.5	21.0
4. スポーツ	4-1	スピードスケート世界選手権で清水宏保世界新	84.0	15.5
	4-2	サッカーくじ、toto でいきなり 1 億円 2 本	86.5	49.0
	4-3	シアトルマリナーズのイチロー初死球	78.0	19.0
5. 芸能	5-1	篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される	89.5	21.5
	5-2	玉三郎 21 世紀座芸術監督辞任で提訴へ	60.5	3.5
	5-3	久米宏母痴呆、妻更年期障害の日々を告白	45.0	7.0

注

1) 具体的な番組名は、表-1 を参照のこと。

2) 他の 12 誌とは、女性自身、週刊女性、女性セブン、FLASH、FOCUS、AERA、週

刊文春、週刊新潮、週刊現代、週刊ポスト、サンデー毎日である。

- 3) 川上善郎他、2000年度－2001年度科研費基礎研究（B）（2）による。
- 4) <http://www.nifty.ne.jp/asahicom/>と <http://www.nifty.com/QYSK>
- 5) <http://www.dango.ne.jp/goo/zine.htm>
- 6) 首都圏の大型団地の住人を対象に、2001年3月16日から3月19日に実施した「日常の会話」に関する質問紙調査の中で、これらの15ニュース項目について認知度を調査している。詳細は、「平成12-13年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）研究成果報告書」（川上、2002）を参照のこと。
- 7) 15のニュース報道に関して、報道期間、領域という選択基準のほかに、それらのニュースが特定の日に偏らないことを考慮して選定した。
- 8) メディア別という場合のメディアとは、テレビニュース、ワイドショー、一般紙、スポーツ紙他、インターネットニュース、週刊誌の6メディアを指す。
- 9) 系列別とは、朝日系、読売系、その他をいう。
- 10) 新聞などの発売時間は、朝刊は6時、夕刊は17時とした。
- 11) 週刊誌の場合はタイムラグがあり、該当する記事が極端に少なかったため参考程度にとどめた。

結果と考察

調査項目

分析の対象は、「社会的現実形成にかかわるニュースメディアの可能性と限界」で扱われた調査項目である。国際・政経・事件・スポーツ・芸能の5分野から各3項目を抽出し、計15項目に関して分析を行った。これらのニュースは2001年3月9日から15日の間に話題となった項目であり、それらのニュースに関して、テレビ（ニュース、ワイドショー）・新聞・スポーツ紙・インターネットニュースの各メディア報道量について定量的な分析を行った。

以下、1. ニュースの概要（1.1 概要、1.2 背景要因、1.3 その後の展開、1.4 ニュースが報道された経緯）、2. 最速報メディア、3. メディア別／系列別にみたニュース報道量、4. メディア別／系列別にみたメディア推移、5. メディア別にみたニュースの位置づけ、といった視点について、各ニュースの分析の結果を順次述べる。

調査内容は下記に記す15項目のニュースである。

【国際分野のニュース】(1-1 実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪、1-2 コロンビアで邦人社長誘拐される、1-3 機密費流用の外務省松尾元室長逮捕)

【政治・経済分野のニュース】(2-1 森首相、事実上の辞意を表明。自民五役と会談、2-2 森首相が「拾われた赤ん坊じゃない」と発言、2-3 三菱自動車クレーム隠しで株主代表訴訟)

【事件分野のニュース】(3-1 タバコ、酒の自動販売機禁止。深浦町条例可決、3-2 新幹線無人で走行。制帽取りに運転室離れる、3-3 マイライン初集計、NTTがひとり勝ち)

【スポーツ分野のニュース】(4-1 スピードスケート世界選手権で清水宏保世界新、4-2 サッカーくじ、totoでいきなり1億円2本、4-3 シアトルマリナーズのイチロー初死球)

【芸能分野のニュース】(5-1 篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される、5-2 玉三郎21世紀座芸術監督辞任で提訴へ、5-3 久米宏母痴呆、妻更年期障害の日々を告白)

【国際分野のニュース：1-1 実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪】

1. ニュースの概要

1.1 概要

ハワイ現地時間の2月9日午後1時43分、ハワイ・オアフ島南18 kmの沖合で、愛媛県宇和島水産高校の漁業実習船えひめ丸が、米海軍の原子力潜水艦グリーンビルに衝突され沈没した。この事故で高校生4人を含む9人が死亡した。えひめ丸はマグロはえ縄漁の実習のため、1月10日に日本を出発し、2月7日にハワイに寄港していた。直接的な事故の原因は、原子力潜水艦グリーンビルが緊急浮上したことによる。

当初、米海軍は、緊急浮上の訓練中の事故であり、民間人の乗船と事故の因果関係については、繰り返し否定していた。しかし、20日夜、米国家運輸安全委員会(NTSB)の調査報告の発表により、事故原因にまつわる様々な問題が明らかになった。(1) ソナー室の人員配置が1人は訓練生という状況で不適切だった、(2) 民間人の搭乗のため艦内が狭くなり、航跡図の作成作業を中止していた、(3) 司令室付近のソナー情報を伝えるモニター画面が一つは作動可能

であったにもかかわらず、故障とみなしていた、(4) 前艦長らの潜望鏡確認が不十分であった、(5) 艦長とえひめ丸の接近を察知していたソナー技術官の意思疎通が欠如していた、(6) 原子力潜水艦内の司令室にいた16人の民間人の存在が、前艦長らとソナー情報解析技術官との対話に障害を及ぼした、など。

<謝罪問題>

事故から半月以上たった2月25日、沈黙を守っていたワドル前艦長が弁護士を通じて声明文を発表した。それによると日本国民や行方不明者の家族らに対して遺憾の意を表明するものの、謝罪の言葉はなかった。その後、日本時間の27日、米政府のファロン特使は謝罪の意を表明したブッシュ大統領からの親書を森首相に手渡し、今回の事故について米政府と米海軍が全責任を取ると言及した。翌28日、家族との面会で謝罪し引き揚げ作業に着手することを約束した。

しかし、謝罪に関し、日米間であつれきが深刻化してくる。行方不明者家族らは、ワドル前艦長が被害者に直接謝罪するのが筋と考えるが、米国人流に考えると謝罪するということは謝罪するだけのことをしたと受けとめられるので、法的立場を守る権利上、気持ちはあっても容易にはできないという日米の違いが明らかになった。さらに、米メディアでは、土下座、従軍慰安婦問題、南京大虐殺問題ということばも飛び出し、また、日本では謝罪に関して各党の主張も活発化し、日米間の応酬も激しくなることが懸念された。事故は日米同盟関係を揺るがす政治的な側面を有した。このような状況下で、3月1日夜、ワドル前艦長が行方不明者の家族らにあてた謝罪の手紙など11通が届けられた。

このような状況において、事故発生から25日目の3月5日、ハワイ・ホノルルで海軍の査問会議が開かれた。公の場で事故原因の究明がはじまったのだ。6日、証言免責を求めて前艦長が証言を拒否する中、8日、予備調査では前艦長に犯罪的過失はなかったという見解がなされた。この日の午前8時前、査問会議開始に先立ち、前艦長は行方不明者の家族に対し謝罪の意向を示し、結局、会議終了後の午後5時ころ（日本時間3月9日正午ころ）、事故後はじめて、直接謝罪した。その後、ワドル前艦長は、13日には新たにホノルル入りしたほかの家族に対しても謝罪の意向を示し、14日の査問会議の休憩中には、証

言を終えたばかりのえひめ丸大西尚生船長の控え室を訪れ、謝罪の言葉を伝えた。16日午後、ワドル前艦長は、傍聴にきていたえひめ丸の行方不明者の家族らに会って再び謝罪した。

1.3 その後の展開

<米海軍査問会議による事故原因解明と処分>

3月20日、ワドル前艦長が、証言を拒否する前日までの姿勢を転換し宣誓証言に応じたことにより、海軍予備調査報告担当官が指摘した潜望鏡確認の不十分さなど「事故への複合的な要因」が、裏づけられ、同日、米海軍査問会議が終了した。しかし決定的な事故原因は特定されず、民間人搭乗と事故との因果関係もあいまいのまま審理は終了し、事故原因が複合的で責任が拡散されていく傾向が見られた。

結局、事故はワドル前艦長らの怠慢や判断ミス、安全より民間人の体験航海を優先したことなど5つの要因が複合して起きたという結果となった。と同時に、故意ではなかったことを認め、軍法会議の開催は求めず、ワドル前艦長ら2人に司法手続きによらない処罰を、副艦長ら6人に行政処分を勧告した。また、体験航海の全面的見直しも求めた。事故原因については(1)緊急浮上の際に前艦長が操官に性急さを要求した、(2)前艦長が安全確認の方法や時間などの標準手続きを無視した、(3)えひめ丸の航跡を追うべき目標解析チームが機能を失ったことを「主因」とした。

<その後の動き>

2001年9月30日、ワドル前艦長が米海軍を除隊した。

10月12日、えひめ丸の引き揚げ作業がはじまった。結局8人の遺体が発見されたが、1人の不明者を残したまま、11月6日に船内捜索は終了した。

2002年1月10日、えひめ丸の事故で犠牲になった9人の合同慰霊式が宇和島市で営まれた。

2月9日、9人の犠牲者の慰霊碑の除幕式が、愛媛県などの主催で、ホノルル市カカアコ臨海公園で開かれ、遺族や学校関係者、米軍代表ら約500人が出席した。

4月10日、米海軍と愛媛県の間で、補償金1147万ドルの和解契約書に調印

した。しかし、遺族や救出された元実習生の家族らは、いずれも合意に至っていない。

8月10日、宇和島水産高校の新しい実習船5代目えひめ丸の進水式が、今治市で行われた。

12月15日、事故から1年10ヶ月後に、ワドル前艦長が来日し、宇和島水産高校を訪問し、同校内の慰霊碑に献花し黙祷をささげた。この後、宇和島市内のホテルで、救助された被害者の元実習生9人のうち面会を受け入れた4人とその家族に会い、直接謝罪した。この面会における元艦長の直接の謝罪は、被害者にとって「一つの節目」となった。

表-3 最速報メディア一覧

		事件発生情報		最速情報メディア		
		事件発生日	事件発生時間帯	メディア名/番組名	報道された時間	系列
1. 国際	1-1 実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪(9日)	3月9日	現地時間8日午後	NHK おはよう日本	3月9日 7:01:07	NHK
	1-2 コロンビアで邦人社長誘拐される(10日)	2月22日	午後5時半頃	NHK 週間ニュース	3月10日 8:35:12	NHK
	1-3 機密費流用の外務省松尾元室長逮捕(10日)	3月10日	午後	スーパーJチャン	3月10日 17:30:17	朝日
2. 政経	2-1 森首相、事実上の辞意を表明。自民五役と会談(11日)	3月10日	午後	読売新聞/ スポーツ報知	3月10日 6:00:00	読売
	2-2 森首相が「拾われた赤ん坊じゃない」と発言(12日)	3月12日	午前	asahi.com	3月12日 12:47:00	朝日
	2-3 三菱自動車クレーム隠しで株主代表訴訟(12日)	3月12日	不明	NHK 「ニュース7」	3月12日 19:20:16	NHK
3. 事件	3-1 タバコ、酒の自動販売機禁止。深浦町条例可決(12日)	3月9日	昼間	yomiuri On Line	3月12日 12:55:00	読売
	3-2 新幹線無人で走行。制帽取りに運転室離れる(13日)	3月10日	午前7時過ぎ	12:00 ニュース	3月13日 12:16:23	NHK
	3-3 マイライン初集計、NTTがひとり勝ち(14日)	3月14日	不明	asahi.com	3月14日 21:52:00	朝日
4. スポーツ	4-1 スピードスケート世界選手権で清水宏保世界新(11日)	3月11日	不明	NHK おはよう日本	3月11日 7:28:55	NHK
	4-2 サッカーくじ、totoでいきなり1億円2本(12日)	3月11日	午後5時頃	スポーツ報知	3月12日 6:00:00	読売
	4-3 シアトルマリナーズのイチロー初死球(13日)	3月12日	不明	asahi.com	3月13日 12:11:00	朝日
5. 芸能	5-1 篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される(8日)	3月5日	未明	朝日新聞	3月8日 17:00:00	朝日
	5-2 玉三郎21世紀座芸術監督辞任で提訴へ(9日)	3月9日	不明	yomiuri On Line	3月9日 14:03:00	読売
	5-3 久米宏母痴呆、妻更年期障害の日々を告白(15日)	3月15日	不明	スーパーモーニング	3月15日 8:08:12	朝日

2. 最速報メディア

「えひめ丸の家族にワドル前艦長が謝罪」に関するニュースをはじめに報道したのは、3月9日、NHKの朝7時のニュースであった。実際に前艦長が謝罪をしたのは、現地時間の8日の夕方であるが、すでに同日の午前8時に「謝罪の意向」を表明している。これは日本時間の9日午前3時にあたる。さらに、その後の実際の流れをテレビニュースを中心にみていくと、9日の午前中の報道は「謝罪の意向」というニュースであったが、これが「謝罪」へと変わるのは昼の12時の読売系列のワイドショーからである（このニュース項目の報道開始時間は午後1時37分）。以上から、まず、速報性の高いテレビニュースにおいて「謝罪の意向」という記事が報道され、その後、その他のテレビニュースを中心に順次同様な報道がなされていた。さらに、「前艦長が謝罪した」（日本時間9日正午ころ）事実が確認出来次第、その時間帯に報道されたメディアによって「謝罪」のニュースが順に報じられているのがわかる。

3. メディア別／系列別にみたニュース報道量

この期間における「えひめ丸沈没事故」関連の報道内容の流れをみると、3月9日の午前中「前艦長が謝罪の意向」というように、前艦長の謝罪を予告するニュースに始まり、正午以降「前艦長が謝罪した」というニュースとなる。午後は、どのメディアもこぞって「前艦長謝罪」のニュースを報道する。翌日の10日は、前日報道を行っていないメディアを中心に、同様の報道が行われる。それと同時に、「えひめ丸引き揚げ」に関してのニュースが報じられ、その後の報道は、査問会議の中で原因についての新事実が明るみに出されるため、事故原因に言及したニュースが中心となって流れていく。この中で、3月13日には、新たにホノルル入りした家族に対し「前艦長が再び謝罪の意向」を伝えるニュースや、3月15日には、えひめ丸の「大西船長に、謝罪した」というニュースも報道される。

ここで報道量をみてみると、テレビ報道では、テレビニュースにおける報道件数が66件、報道時間は2時間16分8秒、ワイドショーでは、14件、23分30分であった。これらの報道量は他のニュースに比べてもかなり多く、そのうちのおよそ半数にあたる53%は、ラインナップ順位が5位以内となっており、かなり重要度の高いニュースとして取り扱われているのがわかる。

一方、新聞報道では、一般紙で、28件、13715文字の報道があり、そのうちのおよそ4分の1にあたる25%、7件は、1面報道となっていた。また、スポーツ紙の報道量は、13件、5612文字で、社会面に掲載されている。インターネットニュースにおいては、39件、16764文字であり、系列により国際面、社会面にそれぞれ掲載され、内容によって政治面への掲載もあった。これら、一般紙の1面掲載率、及び、スポーツ紙、インターネットニュースを含めた新聞報道全体の報道量の多さから、この事故のニュースが大きな関心事となっていることがわかる。さらに、事故後さまざまな問題が山積み（事故原因追求や責任問題、沈没船の後処理問題、謝罪問題など）されていて、事故の解決に向けた波及問題がまだまだ進行中であり、それに伴い、関連報道が多くなっているといえよう。

次に3月9日の「艦長が家族に謝罪」関連のニュースに的を絞って、報道量をみていこう。まず、テレビ報道についてだが、テレビニュースでは、報道件数が15件、報道時間が39分34秒であった。そのうち、NHKによる報道は、7件、14分10秒、朝日系列は2件、5分37秒、読売系列では、6件、19分47秒という結果であった。さらに、ワイドショーでの報道は、4件、10分7秒で、特に、謝罪当日の9日に報道されたワイドショーをみてみると、ハワイからのライブ報道を取り入れ、詳細に関してはスケッチを用いるなどの同様な報道形態がとられており、報道に際し、十分な準備がなされていたことがわかる。次に、その系列ごとの内訳をみてみると、朝日系列が1件、59秒、読売系列が3件、9分8秒であった。このようにテレビニュースでは、読売系列とNHKによる報道が多く、ワイドショーでは、読売系列の報道量が多かった。このような系列による報道量の差には、いくつかの原因が考えられるが、系列ごとの調査対象番組の数差が大きいと思われる。つまり、この事件については、9日にはどのメディアでも報道されていたため、テレビニュース番組の多いNHKやワイドショー番組の多い読売系列という差が報道量として跳ね返ったのではないかと推測される。さらに、朝日系列と読売系列の日ごとの報道をみてみると、読売系列に関してのみ、10日と11日のニュースでも報道されており、読売系列の方が多くの番組でこのニュースを取り上げ、それが結果として報道量の多さにつながっていたといえよう。

一方新聞報道では、一般紙は2件、2125文字で、そのうち朝日新聞が、1件、

1410文字、読売新聞が1件、715文字であった。次に、スポーツ紙では朝日系列に2件、920文字の報道があった。インターネットニュースでは4件、2050文字で、そのうち、朝日系列が2件、1260文字、読売系列が2件、790文字であった。以上、新聞報道に関しては、朝日系列の報道量の方が多いという傾向が見られた。

表一４ 実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪：ニュース報道量

メディア		報道件数	報道時間・総文字数
テレビ	ワイドショー	4	0:10:07
	ニュース	15	0:39:34
一般紙		2	2125
スポーツ紙		2	920
インターネット (週刊誌)		4	2050
合計		27	0:49:41+5095

表一５ 実習船「えひめ丸」の家族に前艦長が謝罪：ニュース系列別報道量

メディア	系列	報道件数	報道時間・総文字数
テレビ	朝日	3	0:06:36
	読売	9	0:28:55
	NHK	7	0:14:10
一般紙	朝日	1	1410
	読売	1	715
スポーツ紙	朝日	2	920
	読売	0	0
	他	0	0
インターネット	朝日	2	1260
	読売	2	790
合計		27	0:49:41+5095

4. メディア別／系列別にみたメディア推移

この期間の「えひめ丸の家族に前艦長が謝罪」関連のニュース報道は、3月9日朝、まず、「前艦長の謝罪の意向」のニュースを中心にNHKの朝7時のニュースで「実習船事故前艦長が直接謝罪へ」（日本時間9日午前7時、現地時間8日午前12時）として報じられる。次に、朝の朝日系列及び読売系列のワイドショーで共に取り上げられ、昼にはNHKの12時のニュースで報道される。いずれのワイドショーもニュースもここまでは「家族に謝罪を申し出」という意向を示す報道となっている。その後、午後1時過ぎ、読売系列のワイドショーの「情報特急便、えひめ丸事故」（おもいっきりテレビ）の中で、はじめて「謝罪した」という報道（午後1時37分）に変わり、ここでは前述の通りハワイからのライブ報道を取り入れ、詳細に関してはスケッチを用いた報道形態に加え、宇和島市民のインタビューを行っていた。同様な報道はその直後の読売系列のワイドショー「NEWS撮って出し、ワドル前艦長が家族に涙の謝罪」（THEワイド）においても見られ、ここでは、被害者家族3名にイン

タビューを行っている。その後、引き続き夕方から深夜にかけて全系列のテレビニュースで「謝罪した」というニュースが一様に取り上げられる。一方、その日の午後には、朝日系列及び読売系列のインターネットニュース、夕刊においても同様に報道される。このように、謝罪関連のニュースは重要であったがために、この日の報道は系列を問わず、全メディアにおいて一斉に、しかも、同じようなタイトル、内容で報道が行われたといつてよいだろう。

翌日の3月10日には、朝日系列のスポーツ紙、それから、前日報道枠のなかった読売系列とNHKのニュースの中で報じられている。さらに、翌々日には、読売系列のニュースにおいて取り上げられていた。朝日系列のスポーツ紙では、「ワドル前艦長が直接謝罪、床に涙落とす」(3/10)や「家族への謝罪で肩の荷下りた」(3/13)というようなワドル前艦長の様子をイメージさせるようなタイトルが見受けられた。

5. メディア別にみたニュースの位置づけ

「えひめ丸沈没事故」関連の報道を全体的にみても、報道量が多いという点と、すべてのメディアにおいて、毎日必ず何かしらの報道が継続して報じられていたという点が挙げられる。

その中で、「えひめ丸の家族に前艦長が謝罪」関連のニュース報道は、短時間（ほとんどが半日）の内に、ほとんど全てのメディアにおいて一斉に同じようなタイトル、内容で報じられていた。

テレビ報道においては、テレビニュースでは、報道件数が15件、報道時間が39分34秒であり、ニュースの一件ごとの報道時間は、3分以上のものが全ニュースの3分の1を占めたという程度でとりわけ多いものばかりではないが、ラインナップ順位は、3月11日報道の1番組を除くとすべてが5位以内となっており、このうち3位までのものが75%を占めていた。これらを総合的にみると、ニュースとしての重要度がきわめて高かったことがわかる。さらに、ワイドショーは4件、10分7秒で、ラインナップ順位をみると、「謝罪の意向」を伝えた午前中の報道はさほど高くないが、「謝罪した」を伝える午後の報道は8位以内と比較的高く、報道時間も3分を超えた。

さらに新聞報道では、一般紙の報道量は2件、2125文字で、掲載面をみると、夕刊であるもののすべて1面トップ扱いとなっていた。また、インターネット